

丹波小
学校便り



丹波の流れ



発行日

令和6年6月21日

第3号

文責：芹川 由美

臨海学校に行ってきました

5・6年生は、6月5日（水）～7日（金）の間、臨海学校に行ってきました。今回は、静岡県
の浜名湖に宿泊し、浜松市、掛川市、静岡市などでさまざまな体験をしてきました。

1日目は、掛川城と浜松にある楽器博物館、中田島砂丘です。掛川城は、数年前にNHKの大
河ドラマ「功名が辻」で山内一豊夫妻の物語を放送していました。その山内一豊のお城です。
子どもたちは、説明してくださる方の話をメモを取りながら聞いていました。



2日目は、浜名湖遊覧船、うなぎパイファクトリー、ウオット（浜名湖体験学習施設）、新居の関所跡と旅籠でした。



3日目は、日本平でお茶摘み体験，登呂遺跡博物館です。





3日間を通して、子供たちの目が開く瞬間や豊かな表情をたくさん見る事ができました。日常の学校生活ではできない体験、山梨県や丹波山村との違いを実際に目で見て、触れて、味わって、体験して感じ成長することができました。学校にも臨海学校の様子が掲示してあります。お立ち寄りください。

第1回 コミュニティスクールが開かれました！

6月13日（木）に丹波山村学校運営協議会が木下村長さまにも来ていただく中、開催されました。まず、委員のみなさんを代表して、小学校のPTA会長である小原由美さんが吉野教育長より委嘱状を受け取りました。



次に、会長であります日永龍彦先生よりCS（学校運営協議会）についてのご説明をいただきました。その後、昨年度の活動報告と成果と課題を事務局より報告させていただきました。

昨年度の活動で出た課題を基に今年度の活動を確認しました。率直なご意見がいくつも出され、みんなで改めて考えるきっかけとなる有意義な会になりました。

コミュニティスクールは、地域と学校と一緒に活動していくものです。数十年前、私が小菅村で勤務していた時も、丹波山村も小菅村も村の人たちは「子どもは村の宝」「その村の宝をどうやって育てていくか」といっていました。

自分たちで自分たちの村をどうにかしかしていくこと、それは、丹波山村が好き！丹波山村を誇りに思う！という気持ちを育てることは、故郷を愛する気持ちを育てるということだけでなく、どこにいても、自分が今いるところを大切に思う気持ちを育むということにもつながります。

今いる村の子どもたちが、大人になって広い世界に出た時に、丹波山村でした経験がいろいろなところで生きるはずです。村でなければできない育て方で子どもたちに「本物」を経験させ、成長させていく。それは、あまりに身近にありすぎて今は気づけないかもしれません。で

も、いずれわかることだと思えます。ですから、まずは、興味を持つことから始めてみませんか？一緒に活動をしてみませんか？

1学期は、以下の行事が予定されています。ぜひ、保護者の方も地域の方も足を運んでいただき、子どもたちと一緒に活動しませんか？

ささら獅子舞 6月28日、7月8日 丹波小学校にて

給食の試食会がありました

6月14日(金)に給食の試食会を行いました。今までは1年生の保護者だけでしたが、今年度からは、希望する方は参加できるようになり、沢山の保護者の方が子どもたちの給食の準備からご覧になり、子どもたちと一緒に給食を食べました。

丹波山村の学校給食は、「山梨県でも1番！」とっていいほどとてもおいしいです。そして、味だけでなく、目で見ても楽しめ、何よりも子どもたちのことをよく考えて工夫されています。その証拠に本日のメニューである「鶏のからあげ」は、固いです。それは、子どもたちがよく噛むようにあえて硬めに揚げていると栄養士の先生から聞きました。

コールスローも細かく切っており、野菜嫌いな子どもたちでも挑戦できるようにという調理員さんたちの愛情を感じます。

最後に、「あじさいゼリー」ですが、写真ではわかりにくいかもしれませんが、3色のゼリーをつくり、それぞれ味も変え、ほんとうにあじさいのような色合いで、目でも楽しませてくれます。

